今年の飼料用トウモロコシの発育は～自給飼料の生育状況を調査しました～

令和２年７月 21 日（火）から、神奈川県内各地域で、飼料用トウモロコシの「収量調査」を実施しました。

飼料用トウモロコシは、食用トウモロコシと比べて、草丈が大きく 2.5mほどになり、飼料作物の中でも、栄養価が高く単位面積あたりの収量が多い作物です。県内の酪農家では湘南以西の地域で比較的多くの面積が作付けされています。播種は３月下旬から順次行われており、3 月下旬から４月上旬に播種したものは、７月下旬から８月上旬に収穫期を迎えました。牛は、子実だけでなく、茎や葉もすべて食べるので、トラクターに接続したハーベスタで、トウモロコシ全体を細かく刻み、収穫します（写真１）。それをサイロに詰め込んで密閉することで乳酸発酵し、長期保存できる「サイレージ」になります。栄養価が高く発酵品質が良い「サイレージ」を調製するためには、適期に収穫することが重要になります。

そこで当所では「収量調査」（写真２）を実施して、子実の成熟具合などから、収穫適期に刈り取れるように、助言するとともに、収量実績を確認し、次の作付け計画に役立てていただきます。

今年は、梅雨が長く８月に入ってようやく梅雨が明けたことから、トウモロコシの生育期に日照が不足し、例年に比べ、子実の成熟は、やや遅れていたため、適期収穫について助言を行うとともに、添加材の使用により、サイレージの品質向上が図られるよう支援を行っています。また、やや草丈が低く、収量が少ないとの調査結果となりました。

長雨の影響で、畑がぬかるみ、酪農家の方々の作業も思うように進まなかったですが、雑草防除は適切に行われていました。天候が回復した梅雨明け後には、一気に収穫作業が行われています。

写真１「飼料用トウモロコシの収穫作業」

写真２「収量調査の様子」

畜産技術センターでは、収量調査のほか、酪農家が収穫し貯蔵したサイレージが完成すると、その品質を成分分析などで確認して、飼料給与方法について助言を行うとともに、地域で行われるサイレージ共励会にも協力をしています。